

参院選しずおか 2019

地方に

もつと目を

静岡文化芸術大文化政策学科4年の滝沢なな美さん(23)は6月上旬、都内に本社を置く大手物流企業から内定を得た。浜松で生まれ育ち、地元就職を考えた時期もあったが、大企業のグローバルな仕事環境や豊富な人材に引かれ、首都圏に出る道を選んだ。「総合職ということもあり福利厚生も手厚い。働きやすさも企業選びでは重要だった」と話す。

大学で地元の会社経営者や社員らと接するうちに「地方の企業は働き方改革が遅れている」と感じるようになり、地元就職には消極的になった。

② 学生の地元就職



企業での働き方について話す滝沢さん(右)と瀧崎さん。浜松市の静岡文化芸術大

通えるので生活費が節約できるし、結婚など将来を考えると安心感がある」と地元で就職した理由を述べた。

同大によると、在学生のうち県内出身者は約4割で県内企業に就職する学生は全体の約3割。学生は業務内容のほか残業の量や休日の取りやすさなども重視しているという。滝沢さんは「地元の就職者が増やすなら、地方の中小企業が社員のサポートに力を注げるような政策が必要ではない

働き方改革 首都圏と差

本格的な就活はことし4月から始め、東京に住む兄の家に住み込んで2カ月間都内で企業を探したという。

一方、地元で就職する学生は経済的な余裕や家族との距離の近さを長所に挙げる。浜松市内の養蜂所に内定した瀧崎沙菜さん(21)は、経営理念や社員一人一人を大切に社内風土に共感を抱いた。「自宅からか」と政治に注文する。瀧崎さんは「誰もが将来まで安心して働ける環境が重要。今回の選挙では、働き方についての活発な議論があるといい」と訴える。

記者のひと言 長時間労働や過労死が社会問題として認知され、「働きやすさ」が学生の企業選択にとって重要な要素となっている。

働き方改革関連法が4月から施行され、働きやすい職場環境の推進が期待される一方、人手不足に頭を抱える中小企業は改革に取り

組みにくい現状もある。

地方経済を支える中小企業を守り、その人材となる地元の若者の流出を防ぐためにも、国は働き方を改善させる仕組み作りを迅速に進める必要がある。

(袋井支局・中原僚介)